

## 天敵製剤スワルスキーカブリダニに対する数種薬剤の影響（追補）

農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

アザミウマ類やコナジラミ類などの有望天敵であるスワルスキーカブリダニに対する薬剤の影響については、普及に移す技術第84号および85号（参考資料）で示した。今回、他剤の影響について評価したので、本天敵のさらなる普及推進に当たっての参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 殺虫剤のビフェナゼート（商品名：マイトコーネフロアブル）、スピネトラム（ディアナS C）、殺菌剤のキノキサリン（モレスタン水和剤）、プロピネブ（アントラコール顆粒水和剤）、キャプタン+ホセチル（アリエッティC水和剤）は、散布によりスワルスキーカブリダニに強い悪影響を及ぼし、その影響は少なくとも散布17日～18日後まで残る（図1、2）。
- 2) 殺虫剤のクロチアニジン（ダントツ水溶剤）、クロルフルアズロン（アタブロン乳剤）、ソルビタン脂肪酸エステル（ムシラップ）、殺菌剤のトリホリン（サブロール乳剤）は、散布によりスワルスキーカブリダニに悪影響を及ぼし、その影響はクロチアニジンおよびトリホリンで少なくとも散布11日後まで、ソルビタン脂肪酸エステルで散布4日後まで残る（図2）。また、クロルフルアズロンの影響は徐々に現れ、少なくとも散布18日後まで残る（図2）。
- 3) 殺虫剤のニテンピラム（ベストガード水溶剤）の散布はスワルスキーカブリダニに悪影響を及ぼさない（図2）。

### 3 利活用の留意点

- 1) スワルスキーカブリダニに悪影響が認められた薬剤（上記参考資料1、2）は、本天敵放飼後はなるべく散布を控え、散布後に放飼する場合は影響期間が経過した後に行う。
- 2) スワルスキーカブリダニの各発育ステージに対する各薬剤の影響や他の希釈倍数での影響については不明である。また、本天敵製剤にはパック状の製剤（スワルスキーパック）もあるが、パック製剤に対する影響についても不明である。
- 3) スワルスキーカブリダニ製剤は、主に野菜類（施設栽培）のアザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニ、花き・観葉植物（施設栽培）のアザミウマ類などに登録されている（平成24年1月25日現在）。

#### 4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間  
農作物病害虫防除等の新農薬並びに新肥料資材効果確認試験 平成22～23年度
- 2) 参考データ

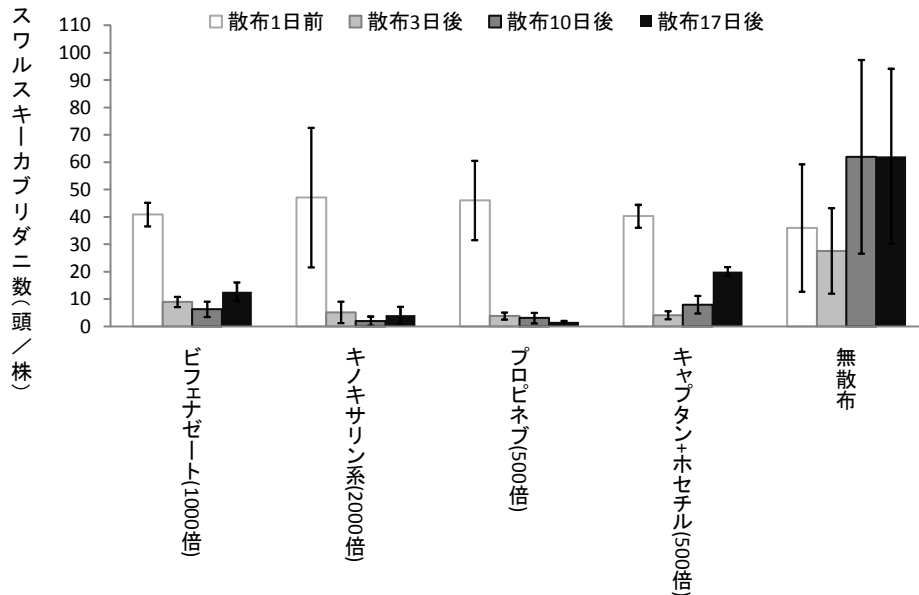


図1 スワルスキーカブリダニに対する各薬剤の影響 その1(平成22年)  
所内ナス圃場, スワルスキーカブリダニは9月9日, 10月6日に放飼, 10月15日に各薬剤を散布, 薬剤名は剤形を省略, バーは標準誤差を示す。1区3連制

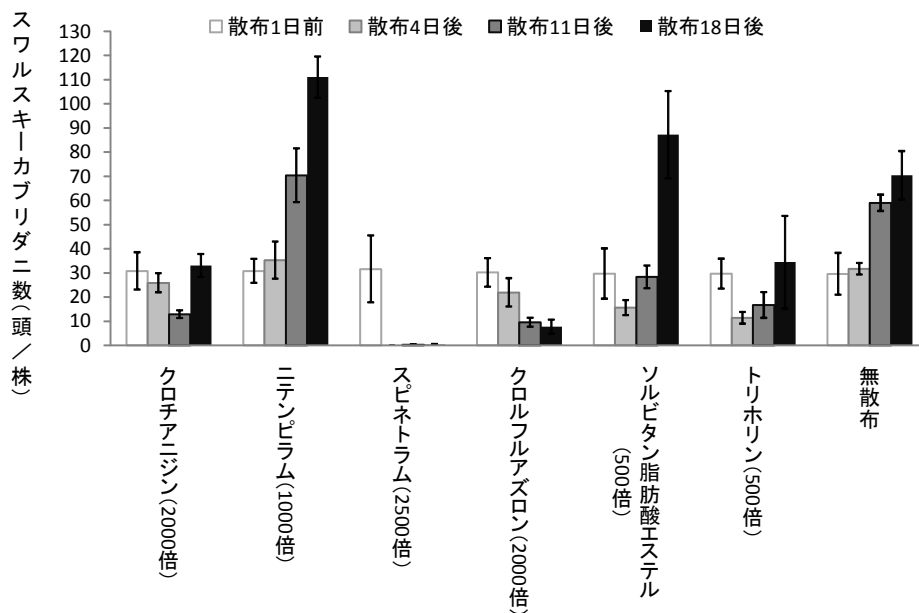


図2 スワルスキーカブリダニに対する各薬剤の影響 その2(平成23年)  
所内ナス圃場, スワルスキーカブリダニは8月24日, 10月14日に放飼, 10月20日に各薬剤を散布, 薬剤名は剤形を省略, バーは標準誤差を示す。1区3連制

- 3) 発表論文等
  - a) 関連する普及に移す技術
    - a) 天敵製剤スワルスキーカブリダニ密度に対する数種薬剤の影響 (第84号参考資料)
    - b) 天敵製剤スワルスキーカブリダニに対する数種薬剤の影響 (追補) (第85号参考資料)
  - b) その他 宮城県農業・園芸総合研究所研究報告第80号 (予定)
- 4) 共同研究機関 なし